

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470900984
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ港北新羽
訪問調査日	平成 21年 7月 3 日
評価確定日	平成 21年 8月 5 日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1470900984
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ港北新羽
所在地	横浜市港北区新羽町2435-17 (電話) 045-540-1855

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年7月3日	評価確定日	平成21年8月5日

## 【情報提供票より】(21年6月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 7 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 9.8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	78,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 900,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	420 円
	夕食	530 円	おやつ	65 円
	または1日当たり	1,315 円		

### (4) 利用者の概要( 7 月 3 日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.9 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤塚外科胃腸科、ウエルケアクリニック、新羽駅前歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、横浜市営地下鉄新羽駅から徒歩約15分の小高い丘の上であり、周囲は緑に囲まれた閑静な住宅地内にある。</li> <li>・理念の「利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、可能な限り自立し、安心して穏やかな生活を送れる支援」と21年度のスローガンを、事務所とスタッフルームに掲げている。職員は心のこもった介護を目指しており、利用者が家庭にいるときと同じような雰囲気、その人らしく過ごせるように支援している。</li> <li>・法人の一貫した運営方針の基で、常勤・非常勤の別なく職員の教育に注力しており、また、職員の柔軟な発想を活かして質の高いサービスの提供に努めている。</li> <li>・職員の若返りもあって、事業所内は明るく華やかな雰囲気に包まれている。</li> </ul>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の課題であった「職員全員による自己評価の作成」については、管理者の指導の基、非常勤職員も含め全職員が参加することに改善した。</li> <li>・また、「ボランティアの受入による裏庭の菜園作り」については、現状、外部の手を借りることなく職員間で協力して対応している。</li> </ul>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が、職員に外部評価の意義を説明し、非常勤職員も含めた全員で自己評価票の作成に取り組み管理者がとりまとめた。</li> <li>・評価結果はスタッフルームに置いて、職員がいつでも観られるようにしている。</li> </ul>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は、メンバーに入居者家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センターの職員と事業所長・管理者が参加して3か月ごとに開催している。</li> <li>・今年は1月と4月に実施して、事業所の運営状況の報告に続いて、地域の活動情報を入手し、この結果、新羽小学校との交流や地区の消防訓練にも参加することができた。</li> </ul>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の意見や苦情・不安については、家族会議や運営推進会議で、また、来訪時に意見を聴き、スタッフ会議を開いて職員全員で検討し対応している。</li> <li>・毎月、生活状況報告書を家族に送付して意見を提出してもらっている。</li> <li>・苦情・相談に関しては重要事項説明書で契約時に説明して同意を得ている。</li> </ul>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は、町内会に加入しており、回覧板を通して地区行事の案内を入手して、敬老会やお祭りに参加している。</li> <li>・新羽小学校との交流があり、運動会に招待されたり、小学生が体験学習として事業所を訪れている。</li> </ul>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念に、「家庭にいる雰囲気ですぐにその人らしく・その人の立場になって」を掲げ、事務所のスタッフルームに掲示している。 ・利用者は、町内の行事に参加したり、近隣の小学校との交流もあり、地域に密着した生活をしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・連絡ノートやスタッフ会議・ケアカンファレンスで、利用者の状況を把握し、利用者が楽しく過ごせるように、支援している。 ・スタッフ会議などで理念を確認し日常の業務に活かすように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者は、町内会に入会しており、回覧板で地区行事の案内を得て毎年敬老会やお祭りに参加している。 ・近隣の小学校との交流があり、利用者が運動会に招待されたり、小学生が体験学習に事業所を訪れたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が外部評価の意義を職員に説明し、非常勤職員を含め全員が自己評価票に記入して管理者がまとめた。 ・評価結果をスタッフルームに置き、職員がいつでも観られるようにしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、入居者家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センターの職員と事業所長・管理者が参加して、3か月ごとに開催している。 ・会議の結果、地域情報が入手し易くなり、地域の行事に参加したり小学生とも交流し、また、地区の消防訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・事業所の運営上の問題や、利用者の案件を通して区役所と連携している。 ・管理者が、食中毒・事故防止・クレーム処理・認知症・権利擁護など市主催の講習に出席した結果を、スタッフ会議や回覧を通して職員に周知している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月家族には、当月の請求書、前月の領収書や金銭出納明細書に、利用者の生活状況報告書を同封している。 ・3か月ごとに、広報誌「やすらぎ」を発行して、事業所での利用者の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の代表が出席している運営推進会議や、家族会議で意見や苦情を聴き、結果はスタッフ会議で検討して運営に反映している。 ・重要事項説明書に、相談・苦情窓口を記載し家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動には、引継ぎ期間を1か月間以上とし、利用者に不安や負担をかけないように配慮している。 ・利用者の状況によっては、異動をそれとなく伝えている。 ・過去スタッフの高齢化や体調不良での離職者がいたが、スタッフの若返りにより、現在異動は限られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間計画表に基づく内部研修には、非常勤職員も参加してスキルアップに努めている。 ・外部研修に参加した職員は研修内容を、スタッフ会議で報告し、また回覧して職員間で共有化している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市のグループホームブロック連絡会に参加している。 ・毎年、同業者の職員同士の3日間の交換研修の機会を利用して情報を交換し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居希望者とは、見学、面接、職員による自宅や病院・デイサービスへの訪問でADLを確認し、判定会議を行い、1～2週間の体験入居などで本人が納得した上で契約している。 ・入居後は利用者と積極的に話す機会を設け、レクリエーションを通して、事業所の雰囲気に慣れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・事業所を第二の住まいと捉え、利用者を親、職員を子供としての家族関係を作りあげるように努力している。 ・何事も事業所の都合を優先するのではなく、利用者の意思を尊重して、利用者と共に喜怒哀楽をし、穏やかに生活するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・「ケアプラン勉強会」を定期的に行き、利用者の言葉に表せない思いや希望を理解するための傾聴や、利用者の行動の仕方を学び、利用者ごとのケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居前のアセスメントで利用者の自宅や病院を訪問し環境や生活歴等の情報を得ている。 ・介護計画は、利用者や家族の意向や希望をカンファレンスに反映し、職員全員で意見交換して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的に利用者の状況をモニタリングし、スタッフ会議で意見交換をして、介護計画を見直している。 ・ケアプランの見直しは、通常時は3か月に1回であるが、利用者の心身に変化が生じた場合は、その都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設デイサービスと合同で防災非難訓練をおこなっている。 ・利用者は、デイサービスの音楽療法や書道教室へも参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者・家族が、それまでのかかりつけ医の受診を希望する場合は、基本的には家族に同行をお願いしているが、必要に応じて職員が対応することもあり、入居時に説明して同意を得ている。 ・かかりつけ医が居ない利用者には、事業所の契約医が対応しており、月2回往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・高度な医療行為を伴うターミナルケアについてはまだ課題も多く契約時に家族に説明して、終末ケアの不可能な場合もあることを納得してもらっている。	○	・今後の「終末期ケア」への要望に対応するため、職員の研修を初め、また利用者、家族、医師と連携して、ターミナルケアについての方針を検討されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入職時に、職員と個人情報の保護についての誓約書を交わしている。 ・法人のコンプライアンス委員会が主催して、プライバシー保護に関する研修を行っている。 ・利用者に対しては、初対面の時には苗字で話しかけ、慣れるに従い名前呼び掛けしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日のスケジュールは、大まかには決まっているが、起床や就寝時間、入浴、食事利用も利用者本人の意思を大切に利用者のペースで支援している。 ・朝食も利用者の希望により、パン食にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立・食材は業者を利用しているが、利用者の希望はできる範囲で対応している。月に一度は出前を取っている。 ・季節ごとに食器を変えて季節感を楽しんでいる。 ・利用者は、もやし・さやえんどうの下拵えや、味見を手伝っており、下げ膳やお茶入れをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は、原則として週2回午前または午後であるが、自立者には、要望を入れて好きな時に入れるようにしている。 ・入浴を嫌がる人には根気よく説得して入って貰っている。入浴剤を使用すると入る人が多いが、滑りやすいので十分注意している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者が、雑巾縫い・洗濯物たたみ・廊下のモップ掛けなど一人ひとりの得意な分野で力を発揮し、張り合いと喜びのある生活が送れるように支援をしている。 ・デイサービスの利用者と一緒に、音楽療法や習字を楽しんでいる利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・立地上坂道が多く日常的に散歩できる状況ではないが、裏庭には自由に入出入りできる。また、通院の帰りにコンビニに立ち寄りたりしている。 ・季節に応じて、初詣や近くの古民家を訪ねたり、公園に花見に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は防犯上施錠しているが、1階と2階、またデイサービスとの間は自由にしている。裏庭の菜園にも自由に入出入りできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回、デイサービスと合同で、利用者も参加して地震・火災を想定した防災訓練を行っている。 ・非常時の連絡網を作成して緊急時に備えており、また、地域の消防訓練にも参加している。 ・水・缶詰などを厨房の引き戸の下に備蓄している。	○	・備蓄品の一覧表を作成し、管理担当者を決めて、種類・数量・保存期間を記載しておくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・「食事・水分量記入表」で利用者一人ひとりの摂取量を確認している。水分の摂取量が少ない人には、好みの飲み物を飲んで貰い脱水症状にならないように配慮している。 ・栄養バランスは、業者の管理栄養士にチェックを依頼している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者を新たに迎えるとき、リビングの一部を模様替えして雰囲気を変え、気分を新たにしている。 ・つまずきやすい物、転倒しやすい物をリビングには置かず、利用者が安全に過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者は、日常使い慣れ親しんでいた箆笥やベット、仏壇、写真などを居室に持ち込んで、居心地良く過ごせるように工夫している。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ミモザ港北新羽
(ユニット名)	ばらの家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区新羽町2435-17
記入者名 (管理者)	高橋 純
記入日	平成 21 年 6 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、可能な限り自立し安心して穏やかな生活を送れるよう、全職員の意識を統一した理念を掲げて、常に目の届くところに掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々の申し送りやスタッフ会議等で職員に話し、常に利用者の立場に立って理念の実践を目標に日々取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすい所に掲示し、かつ入居者や家族等にわかりやすく説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	町内会に参加したり、隣近所の方からおすそ分けを頂いたり、挨拶を交わす付き合いをしている。	○ 現在、近所の方が気軽に立ち寄れる機会がないので、ホームで祭りなどの行事を企画して交流を深めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に加入し毎年敬老会や祭り等に参加している。又、近くの小学校との交流もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	見学等は利用者に配慮しながら受け入れている。また、港北区老人クラブの会報にスポンサーとして広告を掲載させていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価の意義については全員に説明し、理解を得ている。また、評価結果は常に目を通せるようにファイルして、スタッフルームに保管している。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議では町内会長や民生委員・利用者の家族に参加してもらい、年間の行事報告や利用者の状況等を報告している。また、地域への積極的な参加を促され、近隣の小学校との交流を実施できている。	○	委員の方のスケジュール調整の面もあるが、現状3ヶ月に一度の開催になっている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	生活保護の利用者がいることもあり、区役所との連携は取れている。現在も、区役所からの利用者の紹介あり。また、市が実施する講習会にも参加している。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	参考資料など用意してある。また、成年後見人制度などが必要な利用者には、家族に協力し支援している。	○	資料のみでは理解しきれない部分もあり、勉強会等を企画し理解を深めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待や身体拘束があってはならぬよう、二か月に一回身体拘束廃止委員会を設置し行っている。又、身体に危険を及ぼす可能性がある場合は家族と話し合いより良い対応ができるよう話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>口頭、文頭にて説明し確認し合い家族への理解、納得を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、意見や不満・苦情を聞き取り記録はしているものの、外部者を交えた意見交換の機会はこれからである。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一回、生活状況報告書にて利用者の日々の生活についての報告をしている。また、日用品費等お預かりしている金銭の月末残高を報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会、面会時等に直接意見を出してもらっている。玄関前に目安箱を設置している。また、上記13同様に契約時に苦情相談機関説明している。</p>	<p>○ 目安箱を玄関に設置しているが、家族などからの投書がほとんどなく、別の方法も検討していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月スタッフ会議を行い、個々の意見や提案を聞く機会を設け、意見を反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務帯としては決まっているが、日々の状況に合わせてスタッフが協力し合い調整する勤務体制にある。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員がやむを得ず代わる場合は、利用者に混乱をきたさないように、その後のケアについて、スタッフ間で申し送り確認しあっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者研修やエルダー研修などスタッフの状況に合わせた研修の段階を経て、人材を育成する機会を設けている。また、研修の年次計画を立て、社内講師を招いた研修会も実施している。外部主催の研修については必要に応じてその都度受講している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の連絡会に出席したり、同協会の交換研修等で他施設と交流を持てるようにしている。</p>	<p>○ 所長が「実践者研修修了者の会」(有志)のメンバーに入ったので、今後横浜市内の同業者との交流を積極的に持つようにしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の状況把握をきちんとしストレス軽減に向け、カンファレンスや職員間の親睦会を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人ひとりのスキルを把握し、そのスキルに対し少しずつ高い目標を設定して、管理者と職員がその目標を共有することにより、スキルアップを図れるよう支援している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期において、不安な気持ちであることを受け止め、入居前には必ず面接、体験入居を行い本人から意見・話を聴く機会を作り、よく理解した上で受け入れている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には事前に見学等の機会を作り、十分に説明の場を設けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービス内容を求めているのか、どのような支援が必要なのかを本人と家族と共に話し合い対応している。また、他のサービスを利用されている際はサマリー等をいただき、参考にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接はスタッフが利用者の自宅に出向いたり、見学や体験入居等本人が納得し安心した上で入居してもらいサービスを提供している。又、本人にあった状態での環境を持てるようにし徐々に馴染めるようにする。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者としてではなく同じ環境での生活をしている年配者として本人の意見や話を大切に傾聴する姿勢で対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は月一回、手紙にて報告しており面会時には口頭での情報交換に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との外出や外泊、ホームでのリビングや居室でゆっくり過ごせるよう支援している。又、電話など本人・家族の要望にも支援している。家族会も不定期で実施している。	○	家族会がなかなか実施できずにいるので、年に2回を目標に計画したい。(次回H21.7.12.実施予定)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの友人がリビングや居室でゆっくり過ごせるよう支援している。又、電話などの交流も行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わり合い充実した日々を送れるよう、一人ひとりの状況を充分把握して支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム退所後は継続的な関わりはしていないが、友好的な関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関係を密にし本人の希望や意向の把握に努めている。又、一緒に生活する中で、必要と思われるサービスをカンファレンス等で個々に検討し支援している。	○	今後、信頼関係を築くことに更に力を入れていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中や家族からの情報を得、以前の生活について出来るだけ把握するよう努め、サービス利用での変化をカンファレンスで把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	日々の様子は、毎日ケース記録に残し、スタッフ全員が把握するようにしている。又、状況変化に対してはカンファレンスで詰めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との面会時に意見を聴き、今後のケアについて話し合っている。又、定期的にかンファレンスを行いより本人に必要なケアについて意見交換を行い、より良い介護計画を作成できるよう努めている。スタッフがいつでも再認識できるようにファイルしてある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の生活状況報告書によりモニタリングを行い、家族へ知らせている。急な場合は電話連絡などで話し合いの場を持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日、個人のケース記録に記入し情報を共有している。又、申し送りや業務日誌にて介護状況について共有できている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスでお音楽療法・書道教室に参加している。グループホーム以外の人間関係も大切に支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>理美容や書道教室など利用している。又、利用者が以前より親交のある日本舞踊のグループや三味線、演歌歌手等のボランティアにもお願いしている。</p>	○	<p>今後も地域との親交を深めていき、地域との連携を深めていきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>歯科の往診サービスを利用しているが、地域のケアマネジャーやサービス事業者は利用していない。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議を通して、協働とは行かないまでもアドバイスを頂いている。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>現在往診Dr. に切り替え月に2度の定期往診を実施。また、緊急時等は夜間でも往診Dr. に電話連絡を取れる状況で、指示等を受けれる。</p>		

ミモザ港北新羽(ばらの家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居後は家族から個別に専門医に受診してもらっている。ホームとしては専門医の受診はしておらず協力医療機関に臨機応変に対応してもらっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診Dr. に定期的に往診していただき日常の健康管理等の支援にあたっている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した場合、早期退院についての話し合いや情報交換等、協力医療機関に臨機応変に対応してもらっている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>グループホームとして対処できることは入居時文書にて説明しており、本人と家族の希望、医師の判断を仰いだ上で、今後のあり方についての方針を決めている。</p>	<p>○ 往診医・家族等と話し合いの場を設け、今後の方針を共有していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医師と連携し状況変化を把握した上で本人にとって最適な生活が送れるよう、指示を仰ぎ支援している。又、カンファレンスや申し送りにて今後の対処について検討している。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退去する際、本人のダメージを少なくする為、家族やケア関係者との電話や文書で情報交換し、本人の負担を軽減するよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に一人ひとりの人格を尊重し、それぞれにあわせた言葉かけや今までの生活を生かした日々の過ごし方をさりげなく介助、支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に合わせた目線で話を傾聴し、買い物や外出などできる範囲で本人の希望に添えるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や入浴など本人のペースを尊重し、出来る限り本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回理美容のボランティアに来てもらい、髪形等本人の希望に合わせてカットしてもらっている。希望の店がある場合は家族の協力を得てお任せしている。又、化粧品や嗜好品など本人の希望や興味を示したときには支援している。	○ 今後利用者と共に新しい衣類等を買に出かける機会を増やしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや形態に合わせて臨機応変に日々楽しく食事が取れるよう支援している。又、職員と共に調理や盛り付けをし一緒にテーブルを囲んで食事の時間を共有している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなど一緒に買い物に行き好みのものを選んでもらったりしている。煙草やお酒は本人の希望時危険のない程度にスタッフ見守りにて支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をつけてパターンを把握し、一人ひとりに合わせた下着や誘導を行い、プライバシーに配慮した支援方法を使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、入浴する曜日や回数は決めずに行っている。又、本人の希望に沿って寛いで入浴してもらえよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせて支援している。夜間眠れない利用者には温かい飲み物の提供や話を傾聴し安心できるよう支援し、日中が活動的に過ごせるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除機がけなど一人ひとりに合わせた役割や今までの習慣を生かした趣味や楽しみを見出せるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、こずかい程度のお金を自己管理してもらっている。本人の買物の希望などには一緒に行き、好きなものを選んでもらうなど、本人の買物欲を満たせるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は坂道が多く容易に外出できる環境ではないが、裏の畑は自由に出入りしてもらえるよう支援している。また、本人の希望時には出来るだけ添えるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブやお花見、お祭りなど外出やレクリエーションの機会を設けている。又、家族とともに外出することはある。	○	外出の際は家族に案内等でお知らせし、機会の場を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、ホームの電話からかけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人がリビングや居室などで寛ぎゆっくりと過ごせるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を職員間で認識しており、拘束のないケアを実践している。又、危険と思われる時には家族に相談し対応している。身体拘束廃止委員会を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目の届く時間帯は鍵はかけず自由に入出りでき、見守りしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はお茶の時間やレクリエーションなど本人ペースでリビングで過ごせるよう支援し、居室で過ごしている時間も気軽に声かけ訪室できる雰囲気支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホーム内の薬や洗剤、刃物など注意が必要なものは保管場所や管理方法を決めているが、本人持ちの錠やサプリメント等管理可能な利用者に関しては本人に任せている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤嚥等緊急事態が発生した場合、事故・状況報告をまとめており、サービスの改善に努めている。又、カンファレンス等で一人ひとりの状況の変化は職員間で申し送っている。	○	事故防止の為の勉強会を開催し、知識を深めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>年次研修計画以外にも、定期的に勉強会や講習会などしていきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし一人ひとりの状態を把握し支援している。又、咀嚼困難な利用者や誤嚥の危険のある利用者には、状態に合わせた食事・水分を用意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、職員には確認学習してもらっている。又、研修会を開き学習の場を設けている。又、毎年インフルエンザ予防接種を受けている。	○	マニュアルのみでは理解が十分ではないので、今後研修の場を設けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は野菜・魚・肉用を分けている。又、まな板、包丁は毎日消毒している。食材はほぼ毎日食材業者より届いており長期間蓄えることはない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木鉢や写真額など明るい印象が持てるよう工夫している。又、アルバムなどホームでの様子が見てもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは台所の調理の音が聞こえ、季節の花を飾ったりしている。又、ソファを配置し居心地よく過ごせる工夫をしている。テレビの音量や照明など状況に合わせて調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファなど寛げるスペースを設け、利用者同士が思い思いに過ごせるよう支援している。		

ミモザ港北新羽(ばらの家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してダンスや仏壇など馴染みの家具や思い入れのある物を持ち込んでもらい、本人がより快適に生活できるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節など季節やその日その日に合わせて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング・浴室に手すりをつけ危険のないよう自立した生活を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた対応をし、混乱や不安のない生活が送れるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日中、ベランダや畑など自由に日光浴・外気浴ができるようにしている。又、ホーム周辺の散歩や買い物などしている。	○	前年度に比べ菜園が充実してきてはいるが、今後も土地空間を有効に使い利用者に楽しんでもらえるよう努めて生きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・庭では色とりどりの花や野菜などを植えており、利用者が裏庭に足を運びたくなるような環境を作っている。裏庭やベランダからは緑を感じ取れ、ゆったりと落ち着いて過ごせる環境である。
- ・敷地内からは桜の樹や富士山を眺めることが出来る。また、利用者一人ひとりが思うように過ごせるよう、音楽療法などのレクリエーションにも力を入れている。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ミモザ港北新羽
(ユニット名)	うめの家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区新羽町2435-17
記入者名 (管理者)	眞榮田 悠助
記入日	平成 21 年 6 月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの考えや生活習慣を尊重し、安心して過ごせるよう全職員が共通の理解をした理念を、常に目に届くところに掲示してある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々申し送りを行い常に利用者の立場を尊重できるよう情報を共有し、理念の実践を目標に日々取り組んでいる。又、月一度のスタッフ会議にて、よりいっそうの利用者の情報に勤めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念は、利用者やホームを訪れた方々に出来るだけ見やすいところに掲示し、その都度わかりやすい説明をしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の行事に参加、また近所からのおすそわけを頂いたり日常的な挨拶を交わす付き合いをしている。	<input type="radio"/> 現在、近所の方が気軽に立ち寄れる機会がないのでホームで祭り等の行事を企画して交流を深めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し毎年の敬老会や祭り等に参加している。又、近隣の小学校との交流があり互いの行事等で行き来している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	4か月に1回から3か月に1回の開催になり実施回数が増えた。今後2か月に1回開催できるようにしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	資料のみでは理解不十分のため、説明会を行なっていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者、家族が十分に理解、納得してもらえるよう説明し、声にしっかり耳を傾け不安や疑問を解決できるように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情を聞いて記録するようにしているが、外部者との意見交換はできていないためこれから体制を整えていきたい。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、生活状況報告書を作成し、利用者の生活状況、精神面等を報告、又、金銭に関しては使用金額と用途を記入し月末の残高を報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に直接に意見交換している。</p>	<p>○ 目安箱を設置しているがほとんど記入が見られない為、別の方法も検討していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のスタッフ会議を実施、スタッフ等の意見、提案を開き反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間は決まっているが行事、通院等、日々の状況に変化が有る場合、前もってスタッフ間で話し合い、勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員がやむを得ず変わる場合は利用者に混乱させないようにその後のケアは申し送り、スタッフ会議等を活用しダメージを防ぐよう実施している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの状況に合わせた外部研修や、社内研修を実施している。</p>	<p>○</p> <p>外部研修(市町村)の積極的な参加を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との交換研修等を行いそれぞれのサービスを学び、情報を得る機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>向上を高めた上で今まで以上に研修を兼ねた交流を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>平日頃から意見を言えるようスタッフ間の信頼関係を築いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員個々が社内外の研修を受け入れるように働きかけ、常に高い目標を持ってスキルアップしていけるように努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期において本人の気持ちを受け止め、入居前には必ず面接、体験入居を行い本人から意見、話を聴く機会を作り、よく理解した上で受け入れている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には見学の機会を作り、十分に説明の場を設けている。又、初期の段階で家族が何でも話しやすいよう、丁寧に対応するように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、本人と家族が求めるニーズについて話し合い、必要としている支援をしていけるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と連携を取り本人が安心できるように、徐々に馴染みの雰囲気を作っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者としてではなく家族のように接したり、人生の先輩として接し、本人の意見や、話を大切に傾聴し対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月1回の生活状況報告書での報告、又、面会時は口頭での報告を実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常の様子や身体面は生活状況にて報告、又面会時に必要な場合は口頭で説明している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が来所された場合はリビングや居室での会話の場を設け、また電話での交流も行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション、作業療法をみんなで行い、孤立せず関わりを持つよう実施している。	○	孤立しないよう努めているものの、どうしても孤立してしまう利用者もいるのでもう一度個々が興味を持つものを模索していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム退所後は継続的な関わりは出来ていないが、必要とする利用者や家族には関係を大切にしたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活習慣や考えを尊重し、利用者と信頼関係を築くことで希望や意向の把握に努めている。	○	今後、信頼関係を築くことに更に力を入れていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを活用し、本人の情報をスタッフのみが見れる場所に保管しいつでも拝見できるようにしたり、カンファレンスを実施している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活はケース記録に残している。それによりスタッフ全員が把握できるようにし、心身等に変化があればケアカンファレンスにて対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは常にスタッフの手に届く場所に保管し、それを基にケアしている。また、カンファレンス等日々の中で意見を出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等にてADLの低下等変化がある場合は現状の計画として新たな計画を作成している。急な場合は電話で早急に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の記録はケース記録にて記入し、スタッフは必ず目を通している。また意見等がある場合はスタッフ間の連絡ノートに記入しスタッフ会議等話し合いの場を設けている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設しているデイサービスで音楽療法や書道があるので参加している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>理美容や書道教室の利用、近隣の小学校に交流をお願いしている。</p>	○	<p>散歩、昔ながらの文化や遊びに詳しいボランティアに来て頂けないか検討している。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>歯科往診、内科往診サービスの利用をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に招き、アドバイスを頂いている。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族対応を含め(通院)往診機関を利用し出来る方は往診対応し、又、近くの医療機関とも今まで通り築いている。</p>		

ミモザ港北新羽(うめの家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に理解のある医師との関係を築き情報提供、緊急受診対応できる機関が近くにある。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職との連携はなく定期的に往診して下さるドクターにそうだんしている。緊急時や往診受けてない方は引き続き近隣の医師に相談している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は病院側と連携を取り退院した時にむけて環境を整え適切なケアに当たっている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>グループホームとして対処できる事は入居時文書にて説明しており本人と家族の希望、医師の判断を仰いだ上で今後のあり方を検討している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人が安心して過ごせるようADLの把握、家族との情報交換を行なっている。今後の変化に応じては別の居所への検討のお願い等も行なっている。</p>	<p>○ 別の居所へ移る際は本人に出来るだけダメージがないように慎重に行ないたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護サマリーの提供等、本人の情報を細かく伝え共有し別の居所にいても今まで同様安心して過ごせるように支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合わせた声掛けやこれまでの生活を生かした日々の過ごし方を介助、支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の要望等を聴き常に本人に合わせた目線で傾聴し買い物、外食等で出来る範囲で支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、お手伝い等無理強いせず声掛けし手伝う方(出来ること、出来ない方)手伝わない方を把握し、その時本人が何をしたいか見極め支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回の理美容にてカットしてもらい身だしなみを整えてもらっている。希望のお店等あれば家族に協力して頂き行って貰っている。	○ 美容部門(化粧等)の訪問にて何ヶ月かに1回メイクの実施にておしゃれの楽しみを味わえる機会を検討している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ見守りのもと、野菜を切っていただいたり食器洗い等一緒に準備、片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなど本人と一緒に買いに行き食べたいものを選んでもらっている。お酒、タバコに関しては見守り行い危険のないよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表の活用、各々の排泄パターンを把握できる様に努め、声掛け誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的に利用者に声掛けを行い、本人の希望で入浴を行っている。又、入浴剤を利用し家庭的な雰囲気を楽しむように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせているが、昼夜逆転にならないように日中は適度に昼寝をし、手伝い、レクリエーションを行い生活パターンを築き夜間、安眠できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、布団干し掃除機掛け、調理のお手伝いなど、一人一人の役割、楽しみを見出し少しでも普通の生活ができる様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者には、小遣い程度のお金を自己管理して頂いている。時々買い物等に行き、好きなものを買っていただき本人の買い物欲を満たせるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は坂道が多く外出は容易ではないが買い物にお誘いしたり、家族の協力を得て気分転換できるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節にあった行事(ドライブ、花見、外食等)の機会を設けている。	○	家族を交えての行事はないため機会を作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった際、常識の範囲内の時間であればいつでも電話をかけられるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人たちが、リビング、居室等でゆっくり過ごせるようにし、家族会などで、家族が気軽に来所して頂ける機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行なわないことを職員全体で認識している。拘束のないケアの実施、危険と思われる場合は家族に相談している。廃止委員会も設置している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目の届く時間帯は、鍵をかけずに自由に入出りでき、入居者に危険がない様に支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビング等にて本人のペースで過ごせるよう支援し、居室で過ごしてる時間も声掛けし、訪室出来る雰囲気作りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険でどうしても置けない物品もあるが、必要な物は出来る限り無くさないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態が発生した場合事故状況報告を行い、サービス、防止の改善に努めている。対応マニュアルを作成スタッフがすぐ見れる場所においている。	○	事故防止の為の勉強会を開催し、知識を深めたい。

ミモザ港北新羽(うめの家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルはあるが、全てを把握しているとは限らない。	○	定期的に勉強会や講習会を行なっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に速やかに非難できるよう消防署を招き避難訓練をしている。また地域の方にも協力を仰いでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起りうるリスクについて話し合い、対策をケアプランに載せて家族にも見て頂いている。利用者には自由に過ごして頂いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・表情・食事摂取の変化に気付き、体調不良時はスタッフ間で連携を取る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ファイルに挟み、職員が目を通せる場所に保管。チェックファイルにも個々の薬名・効能等記載されており、薬の目的・重要性の把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表にてチェック・管理。1人1人に合わせた水分補給や下剤の調節・運動等支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は毎食口腔ケア声掛けし、自立出来る方は口腔ケアセットを渡し、介助の必要な方はスタッフが援助する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取等チェックし、1人1人の状態の把握・支援又、咀嚼や誤嚥の危険のある利用者には状態に合わせた食事提供をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの設置、研修等にて学習の場を設けている。インフルエンザの接種もしている。	○	マニュアルのみでは理解不十分の為、今後年に数回全員が参加できる研修の場を設けたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理食材によってはまな板を分ける、まな板包丁等は毎日消毒している。食材は業者により届いており、衛生管理法にて2週間食材を保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や家族、近隣の人たちが親しみを持てるように玄関には植物や飾りつけをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者が不快を感じるものを置かないようにし、季節を感じるような花等を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを置き、利用者同士が好きな場所で自分のペースで過ごせるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや家具や馴染みのものを持参してもらい、本人が快適に生活できるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日し、季節やその時その時に応じて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、要所要所に手すりがあり、利用者が手すりを使ってできる限り自立して生活できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が混乱や失敗してしまった時にはその都度安心できるよう声掛けしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日中天気の良い日はベランダでお茶や日光浴を楽しんでいる。又、ホーム周辺は坂が多いため誰もが散歩出来ないが、出来る方は歩いて買い物に行ったりしている。	○	2階ベランダにプランター等を設置し、植物に触れる機会を作っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ミモザ港北新羽(うめの家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・庭では色とりどりの花や野菜などを植えており、利用者が裏庭に足を運びたくなるような環境を作っている。裏庭やベランダからは緑を感じ取れ、ゆったりと落ち着いて過ごせる環境である。
- ・敷地内からは桜の樹や富士山を眺めることが出来る。また、利用者一人ひとりが思うように過ごせるよう、音楽療法などのレクリエーションにも力を入れている。